



りすじろう通信

2022年度
「JVR養成講座・遊び道具を作ろう」号

ようこそ、栗東自然観察の森へ 第2回JVR養成講座の活動の様子を紹介します。



第2回JVR養成講座 はじまりの会(活動説明)
★森を探検
★からくりカイツブリをつくろう
★木の勾玉をつくろう



★JVRSさまと活動前の打合せ

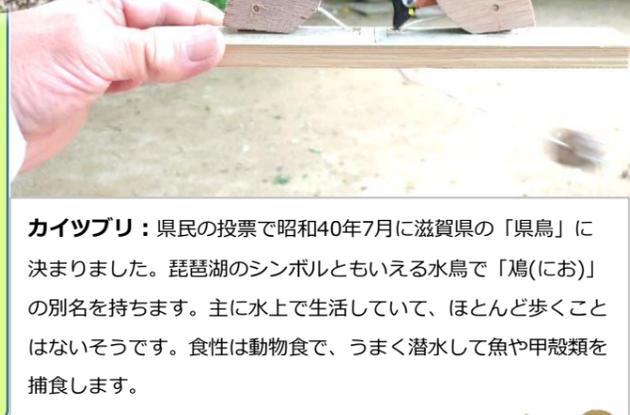


夏の森を歩こう♡
観察のポイントを紹介しています。

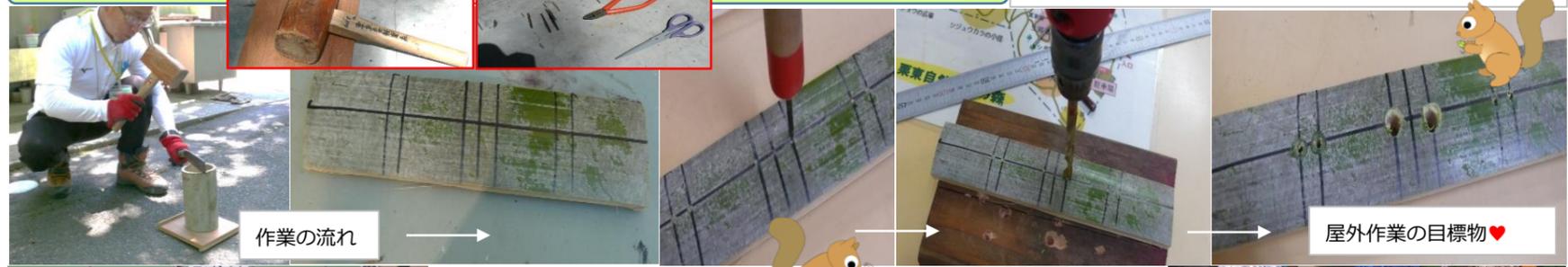


クワガタムシがいたね

遊び道具をつくろう♡
ひとつ目は、「からくりカイツブリ」をつくります。
からくりカイツブリって何?・・・ですよ〜 次の頁の完成品見本をみてください!
竹の台を琵琶湖の湖面にみたくて、2羽のカイツブリが仲良く水面をたたいて遊ぶクラフト作りになります。
講座生のみなさんが扱う道具は、ノコギリ・ナタ・キリ・木槌です。危険にあわないために、扱い方の説明をしっかりと聞いて作業を進めてください。



カイツブリ：県民の投票で昭和40年7月に滋賀県の「県鳥」に決まりました。琵琶湖のシンボルともいえる水鳥で「鳩(にお)」の別名を持ちます。主に水上で生活していて、ほとんど歩くことはないそうです。食性は動物食で、うまく潜水して魚や甲殻類を捕食します。



作業の流れ

屋外作業の目標物♡



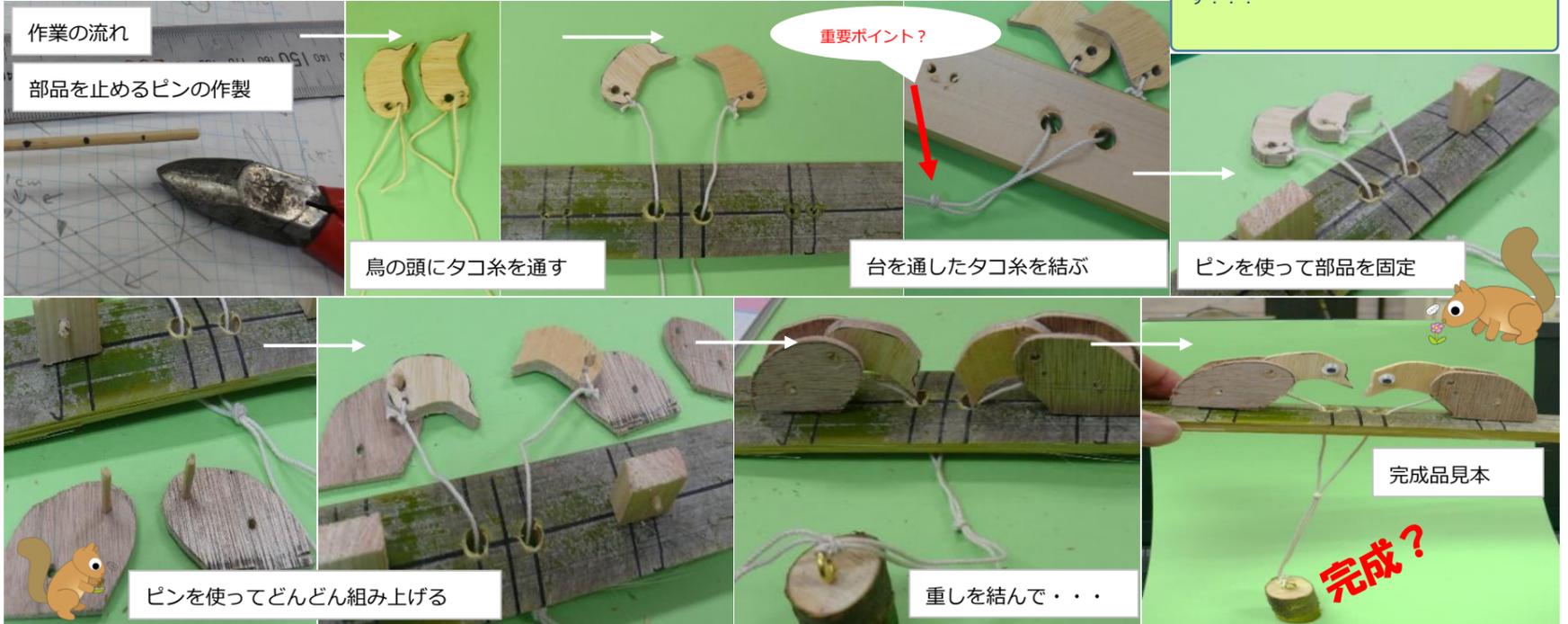
ごーし、ごーし♡

ごーし、ごーし♡

ごーし、ごーし♡



講座生の皆さま、お疲れさまでした。扱えない道具を使った作業に、大変に苦心されましたね？ 又、サポーターズの皆さまにも大変にお疲れさまでした！ おかげさまで、誰一人危険にあうことなく作業を進めることができました。ありがとうございます♡
 いよいよ、ここから組み立て作業に入ります!!!



からくりカイツブリの「からくり」は、首の動きを、重しの揺れを利用して上下させるものでした。原理を知ると、そういうことか？と理解が深まりますが、実際に作ってみるとあらためて単純な構造でよくできているなと感心します。今回、限られた時間の中で作品をうまくみ上げることができず、動作確認まで作業がすすみませんでした。誠に、申し訳ありませんでした。本当に、ごめんなさい。



ふたつ目は「木の勾玉をつくらう」を予定していましたが、作業いただく時間がなくなりました。大変に、申し訳ございません。木の勾玉作りは、第3回の講座で時間を割いて実施いただく予定とします。お許しください。今回、勾玉の原木として「サクラ」を準備しました。お楽しみに♡ ちなみに、サクラを意味する漢字「櫻」は、元は「ユスラウメ」を意味する文字だったそうです？ 江戸時代に大陸から入ってきたよく似た植物の名前が転用されたようです。

ふりかえりの時間・・・

ふりかえりシートに、夏森を歩いた感想とからくりカイツブリで苦労したことなどについて書いていただきました。※途中までしかできなくて残念だったけれど、友だちと一緒にできてよかったです。※竹をナタとハンマーで割ったことが楽しかった。※くし(ピン)をさすところが苦労しました。※カイツブリに紐を通したり、竹ぐし(ピン)を通すところが大変苦労しました。※とにかくむずかしかったです。※頭が思うようにどちらにも動きませんでした。※ゆれるように作れませんでした。※からくりがうまくいかなかった。※さいしょの糸通しがうまくいかなかった。※たいへんだったけど、できてうれしかった。※首が動いたことがうれしかったです。※動かなかったけど、なにか楽しかった。※工夫したのは、糸の長さを同じにしたことです。※ミリ単位の作業がむずかしかった。※みんなで竹をきったことが楽しかった。(抜粋)それでは、次回の養成講座でお待ちしています。ありがとうございました♡



★次回の予告♡

今日のミッションは
 道具のお片付けです！